

KEN TIMES

2020年 4月号

◆嬉しいプレゼント。



みなさん、おうち時間はいかががお楽しみでしょう？ いや～、僕は家で過ごす時間が大好きですね～。遠くへ出掛けるのももちろん好きですが、家で好きな音楽を聴いて、好きなものを飲んで、好きな本を読んで、好きなことを考えて…。自由で、誰の邪魔もせず、誰の邪魔にもならない。(あれ、家族には大丈夫かな？笑) それにエコだし。しあわせな時間です。

先日、ある方から封筒が届いたんです。何かな？と思い、中を開けてみると…文庫本が一冊入っていました。嬉しかったですね～。今までに、嬉しかったプレゼントはいくつもありましたが、こういう形での本のプレゼントは初めてでした。本をプレゼントするのって、ちょっと特別なものがあると思うんです。まず、絶対に自分が気に入ったものしかプレゼントしたくないし。相手に読まれている時も、「僕はこういう人間なんです」って、ちょっとした告白をしているみたいだし。今の時代、中古の文庫本なんてすごく安く買えるし、郵便料金だって何百円でできるプレゼントですが、その価値は何万倍になるでしょう？ 渡す方も、渡される方も、きっと心がとってもホットになりますよ。

外出自粛の今だからこそ、心の体操、心の旅を存分に楽しみましょう！



今月のインタビューは、翻訳家の、**辛島・ジェニファー・フランス**さんだぜい。



◆ささやかな幸せ、ささやかが幸せ。



これは…いつの写真だろう？3月下旬ですかね。ある朝の登園風景です。お隣に住む兄ちゃんのおうちと一緒に。

夜のうちに雪が降って、パツと晴れた日の朝に、美味しい空気の中、登園する。野沢に住んでいたなんてこともない日常で

すが、この日は特に気持ちがよく、「こういうのが幸せなんだよな～」と実感できる瞬間でした。なんでも自分の受け取りようで、感情はどこまでも広がるんですよ。どちらの方向にも。

日々の「当たり前」に感謝し、全力で楽しんじやいたいと思います。

◆菌活

これは本当にオススメです！！先日、同級生と飲んでいるときに、「毎年花粉症になる？」って話になったんですよ。(話す内容がオヤジになりました



ね。)みんながそれぞれの自分の花粉症事情を展開する中、同級生の一人が、「オレ、ヨーグルト食うようになってから全然ならない。菌活最強だよ。」と。詳しく聴いてみると、ヨーグルトメーカーで、あの高価な「R-1」を量産できるということがわかりました！我が家でも即実践！「R-1」一つで10倍作れちゃいます。以来、毎日食べています。これはやらなきゃ損！

◆今年も行ってます。



雪不足の今年でしたが、変わらずに楽しんでおります。下の子の暖(だん・女)はまだカカの背中ですが、大自然の中で風を切って、最高の

寝床のようです。上の子の葉(よう・男)はまだボーゲン(ハの字)をマスターしていないので、後ろで押さえていないと猛スピードでゲレンデを直進します。そこで使えるアイテムが「浴衣の帯」。宿で使っているものを借りて、スキー場でも大活躍です。来年は帯なしで行けるかな～。

◆サ活。

サウナがめっぽう好きなのです。ペースは...週に1回ぐらいかな。本当は毎日入りたいのですが、水風呂とのセットを求める「サウナー」の僕は、お隣の木島平まで行かないと...。野沢のスパリーナにも水風呂があったらどんなに楽しかったか...。(ただ、木島平まで



のドライブも僕にとっての「サ活」の一部ですので、それはそれで満足なのです。いや、こうなったら野沢に作っちゃおう!?)

皆さん、「ととのう」って、わかります? 漢字にしたらおそらく「調う」だろうな。サウナ-水風呂-休憩...。これを繰り返すことによって出来上がる、「あの状態」のことです。なんと言いましようか、自分の内面に直結する感覚が拡大されるというか...寧ろ鈍くなるというのか...簡単に言うとお酒に酔っている状態に近いのかもしれませんが。でも簡単に言いたくないんです。一番それに近いのは...スキー場に行って、誰もいないコース外に入り、「雪」と「樹」と「自分」だけの状態になった時に味わえる「あの感覚」です。「自分」と、「それ以外の世界」の間がハッキリと見える、別の言い方をすると全くわからなくなってしまう、あの感覚です。「自分、って...何?」 そこまで行ってしまいます。

ディープな話はそこまでとして。サウナによって身体はもちろん、メンタルが非常にいい状態になります。言うまでもなく、良いアイデアがどんどん湧いてきます。ちょっと行き詰まることがあったら、ぜひサウナに行くことをオススメします。全てを解決してくれるでしょう。

【写真は同僚の高山君(木島平在住)と。】

◆「お湯」と「光」を独り占め...朝の滝の湯。



最近の贅沢は朝風呂に入ること。お気に入りのは滝の湯です。お湯が肌に合うみたいなんです。在宅の仕事が増えた今、(コロナの影響というわけではありませんが。)"いかに集中して取り組めるか"が最も重要なテーマになってきました。朝早く起きて、陽の光が温泉の中に入ってきているのを湯船に浸かってぼんやり眺めてい

ると、心が満たされます。頭が究極にリフレッシュします。それだけでもう、最高の1日になります。...野沢ライフ、贅沢すぎます。

◆同級生(心導会)、久しぶりに集まりました。



道祖神の「お疲れさん会」ということで、みんなに活躍してもらったから1軒目はご馳走するわ!と見得を切ったところ、失敗しました。みんなしっかり飲んでくれました笑。同級生で集まるんだから、楽しみに決まっています。3軒目まで行ったのかな? 久しぶりに3時まで飲みました。でもやっぱり同級生は最高だな～! 早く次!

◆30年選手。(書き始めたら懐かしくなって長くなってしまいました！)



正確には、初度登録平成4年とありますので、28年選手です。「ランドクルーザー80」。新社会人となった22歳の時、ランクルマニアの田島あづみさんに見つけてもらいました。本当に掘り出し物だったんですよ。「わかる人にはわかる」ですが、ディーゼルでマニュアルで、約6万キロの状態でした。しかも100万円ちょい！あまり詳しくないのですが、今は少なくとも倍ほどには跳ね上がっているそうです。現在はファミリーカーとして活躍してもらっています。

LAND CRUISERは「cruise＝巡航する」と、その名に相応しく、とてつもない安心感で地球を巡航してくれます。どんなに雪が積もっているところでも、「センターデフロック」とやらのボタン一つで簡単に抜け出してしまうので、必要以上に攻めてしまうのです。ディーゼル車の「振動」と、

「うるささ」に愛着が湧きます。

...この車には色々な思い出があります。本当にキリが無いのですが、購入時の話だけ。当時の銀行の支店長には内緒で買いました。

「この取引先でこの車を買え。」「いやい支店長、すみません。僕も欲しいものが・・・」と、新入行員で銀行の組織というものを知らなかった僕は3ヶ月ぐらい毎日応接室で支店長と押し問答をしていました。(今思うと本当にやる事がなかったんだな～。笑)

そんなことをやっている中、あんな掘り出し物が出てきてしまったので、即、黙って買いました。笑
もちろんローンは別の銀行で組みました。そして数ヶ月が経ち...ひよんな事から「お前、さては車買ったな?」と、支店長の口からミサイルが飛んできました。僕も薄々それに勘づいていたのか「お～、ついに来ましたか、」と、なぜかあまり動揺しなかったのを覚えています。「いや～...買ってないと...思います...よ...?」と、明らかに「買いました!」と言わんばかりの返答をしてしまったので、「野沢まで確認に行くぞ。」となってしまいました。大雪の降る日でした。中野の支店から、支店長、次長、僕の3人で1台の車に乗り

【10年前に撮っていた写真。】

合わせ、(そんな修羅場あります?作ったみたいな話ですよ。笑)

地獄の旅がスタートしました。こともあろうに、僕は朝から半日ずっと銀行周辺の雪掻きをして、お昼を食べて、というタイミングでしたので、その車の中で...その車の中で...眠りました。(今思うと、その時の自分の太さに感動すら覚えます)ほんの一瞬の眠りでしたが、目を覚ました時に次長が、「お前、今寝てただろ?」僕「いえ、寝てません。」そう言いながら、もはや自分でも吹き出してしまったのを覚えています。

僕の家に着くと、ちゃんとそこには、なんと誇らしげに僕のランクルが止まっていた。

-そしてその年の春- 僕は- 松本に飛ばされました。

...10年前の話です。



◆頭から離れない。ロシア民謡。

テトリスのテーマ...わかります?急にどこからか頭の中に入ってきて...インターネットで「テトリス テーマ 曲」と調べてみると、「コロベイニキ(通称:コロブチカ)」という曲名であることがわかりました。あの単調なリズムがなんともクセになって、嫌でも頭にこびり付いて、半日間ずっと聴いてしまいました。どうしてロシアの民謡や古典ってああいった文章なんでしょう?ドストエフスキーの「罪と罰」もあんな感じ。この曲の分かりやすいところを抜粋すると...「私はこう見えて 自分を見くびってはいないのです」 ...わかります?僕の言いたいこと。



僕: ハハハ。じゃあ野沢で行くとしたらどこに行くんですか?

J: 野沢で行くとしたら、「ふるさとの湯」か「熊の手洗い湯」ですかね。

僕らはどんな時にJennyさんを頼ったら?

J: うーん...どうですかね〜。

僕: ちょっと考えてみたんですけど、例えばウチ(ペンション)の場合ですと、海外から直接予約してきたりする人がいるんですよ、英語で。そういうのとか(遠隔などで)をやってもらえるとめっちゃめっちゃ気が楽なんですよ。

J: あ〜、なるほど。もう全然ウェルカムです。それは全然浮かびませんでした。

僕: まあ、出来ない事ことはないんだけど、結構「アレやんなきゃ」というのが頭にあるだけで、そういうのは重なっていくと気持ち的にも負担になるから、とりあえず英語の予約関係については「Jennyさんをお願いしておけば大丈夫」と思えるだけでも凄く気が楽だと思うんですよ。他のことに集中できるから。

【インタビュー風景。吹雪。】



J: あー、すごくわかりますよ。私も英→日をやらない理由も...内容によっては出来るんですけど、監査法人の監査報告書とかなると結構難しい日本語で書かないといけないので、やろうとなるとやっぱり気が重しいし、時間がかかるんですよ。日→英の2、3倍は時間がかかるので効率も悪いんですよ。だからそういうのは他の翻訳者...日本語が得意な翻訳者に任せて、と思うので凄いわかります。

僕: そう、あと今Jennyさんが言ったようにいわゆる「専門用語」、例えば医療の関係ですとか、あと役場や観光協会など、ちょっと公式の文章が必要な時に、野沢のスタッフは結構困ると思うんですよ。だからそういう時に専門家がいると相当助かりますよね。あと、宿のメニューやインフォメーションを作るときなんかもちろん。

J: そうですね。例えば鍋の美味しい食べ方なんかもちいちいち毎回説明するより、1回(説明文を)作っちゃえばいいわけですからね。

【翻訳家(日本語・英語)】

辛島・ジェニファー
フランセスさん

◆オフィス:野沢温泉村・前坂 ◆電話:090-9951-9231
◆メールアドレス:jfkarashima@outlook.jp



僕: 結構飲みに行ったりもしてるんですか?

J: 飲みは...ふふふ。

(中略)

僕: 最高ですね。もう野沢のお祭りも経験してるんですよね?

J: そうですね。見る側ですけど。

僕: Jennyさんにぴったりの村ですよ(笑)

Jennyさんの仕事のこれからは?

僕: じゃあ最後に...うお!(猛吹雪に声がかき消される)

J: 大丈夫ですか!? 私も写真撮っていいですか!?(笑)

僕: 最後に、翻訳の仕事がこの先野沢で、あ、野沢じゃなくてもいいや。こうなっていったらいいなと言うものがありましたら教えてください。

J: あ、でもほんとに、海外のお客さんも多いと思うので、そういう英語のニーズがあればお役に立てるものがあるればぜひ役に立てたらいいなって思っています。お仕事って言うよりは普通に気楽に聞いていただくかたで...全然喜んでやりますので。はい。

僕: じゃあ色々これからまたよろしくお願いします。

J: はい。こちらこそぜひよろしくお願いします。

